農工大の樹　その51

〈解　説〉

メダラ

メダラ（ウコギ科タラノキ属の種タラノキの変種、学名　*Aralia elata var.caescens* Nakai）

タラノキは高さ６m、直径20cmにもなる落葉小高木で、琉球までの日本列島とサハリン、中国北部、東シベリアなどのアジア東北部にも広く分布しています。母種であるタラノキは茎や葉に硬いとげがありますが、この変種はとげがないか、あっても少なく、小葉の下面脈上に短い縮毛のあるものです。タラノキの芽は春の山菜の代表で、同じ仲間のウドと似た臭いを持っています。天麩羅、和え物、汁の具などのほかに、生か焼いて、味噌をつけるだけでも美味しいものです。一般にはタラノキよりもトゲを持たないこの変種の方が好まれるようです。タラノキの新芽が吹く春、この木の皮には養分があって甘く、剥けやすいので、山ではシカやクマが喜んで囓るそうです。材は軽く柔らかいのが特徴で、箱、茶盆などの器具や小細工物に利用されます。樹皮は煎じて糖尿病、肝臓病、胃腸病の薬として古くから服用されてきました。この写真は府中キャンパス内に生育する個体で、伊豆七島に生育するメダラ（シチトウダラ）とその花序です。

（環境資源共生科学部門 教授　福嶋　司）